

## 一般演題 2-4

### 高気圧酸素治療記録結果の集計・統計について

沖野勝広<sup>1)</sup> 東 幸司<sup>1)</sup> 長野準也<sup>1)</sup>  
 乗松由香<sup>1)</sup> 川口達也<sup>1)</sup> 楠 勝介<sup>2)</sup>  
 鈴木義博<sup>3)</sup>

- |    |               |
|----|---------------|
| 1) | 済生会松山病院 ME部   |
| 2) | 済生会松山病院 脳神経外科 |
| 3) | 株式会社小池メディカル   |

#### 【目的】

当院では2006年11月、高気圧酸素治療装置（以後HBOT装置とする）として第1種治療装置BARA-MEDを導入した。その後HBOT記録表の電子管理化を行い、電子カルテと連動させた。

当院で2011年4月にHBOT記録結果を集計・統計するソフト（BARA-MED Database）を導入し使用したので、その有用性について報告する。

#### 【対象および方法】

HBOT記録表をPCで管理するようになった2009年12月から2011年9月まで当院で施行した101例1660回のHBOT全ての治療結果について HBOT装置に連動しているサーバ上でBARA-MED Databaseを使用し、そのデータの解析をして有用性を検討した。

実際の現場ではHBO終了後、本体に接続したサーバ上でデータベースソフトを立ち上げ、治療記録表を作成する。記録表には患者ID、氏名、治療プログラム、治療回数、総治療時間、実治療時間、酸素使用量、治療圧力が自動的に装置より転送されている。転送されたデータに病棟・疾患名・発症日・診療科・主治医、担当医、操作者などの情報を入力し記録表を完成させる。2度目の治療以降の入力は基本的に立ち合い担当医と操作者の選択のみである。BARA-MED Databaseを使用することにより治療記録表にある情報を自動的に集計・統計して出力することができる。

治療データの集計・統計は、集計ボタンを押して期間や年齢幅などを選択すると治療結果を集計・統計された基本データ画面がMicrosoft Excel上で表示される。

画面の下のシートを選択すると機能としては治療プ

ログラム別治療回数・初回回数・患者別治療回数・治療日別治療回数・疾患名別治療回数を集計され表示され、治療回数か導入患者数かを決定しておく、疾患別、月別、年齢別、診療科別、主治医別のうちの2つのデータをくみあわせて統計することができる。

今回得られた統計データをもとに当院の季節別導入患者数、疾患別月別導入患者数を再度統計処理した。

#### 【結果】

当院のシステムは実治療データがサーバに自動転送されており、今回新たにソフトを利用する事により集計・統計までを自動的に行うことができた。

得られたデータはExcelを使って加工することができ、グラフや図表などを簡便に作成することが可能であった。

作成したグラフや図表により治療の推移を把握できた（図1）。

#### 【結語】

今回、集計・統計ソフトを導入したことにより、HBOTデータの集計及び統計が容易になった。

得られた解析データを用いることにより装置の運用状況の把握ができるようになった。

図1. 疾患別月別患者導入数

